

## 第21回尼崎市動物愛護管理推進協議会議事要旨

### 1 日 時

平成29年2月2日（木） 10時30分～12時

### 2 場 所

尼崎市保健所精神保健相談室

### 3 出席者

#### (1) 委 員 7名（敬称略）

植村興、松井定雄、三田一三、瀬戸口敬幸、平川達夫、平井三和子、村田國広、

#### (2) 事務局 3名

宮永生活衛生課長、大平動物愛護センター所長、林生活衛生課動物愛護担当係長

### 4 議事の概要

(1) 「第20回会議議事要旨(案)」について事務局から説明があり了承された。

(2) 資料3について事務局から説明があった。

#### <意見>

- ・ 2年ほど前に野犬の離乳前の子犬が処分されたと聞いているが、今は野犬はいないのか？  
⇒現在も野犬はいる（臨海部）。今年度も2か月くらいの子犬が3頭捕獲された。すべて譲渡されている。
- ・ 犬の苦情はどんなものか？  
⇒鳴き声の苦情、ふんの放置、電柱への尿の苦情が多い。

(3) 資料4について事務局からの説明、及びセンターから配布・回覧しているポスターや看板の説明があった。

#### <意見>

- ・ 動物愛護推進員は何名いるのか？  
⇒18名いる。
- ・ 推進員の会議は定期的に行われるのか？  
⇒年に1回集まって、報告・意見交換会が開かれる。推進員から要望があれば適宜開催することはできる。

- ・チラシ、犬の看板はセンターにあるのか？  
⇒看板はプラスチックの物がある。チラシについてはセンターのパソコンの中にデータがあり、随時修正・加筆を行い作成している（パウチ加工）。
- ・以前に看板（野良猫へのえさやり）を設置したが効果があった。えさやりが減った。
- ・野良猫へえさをやる人は近隣に認めてもらう事が必要。えさをやる時もだらしない格好でやってはだめ。きちんとしていけば周りにも認められる。花を植えたり街の美化にも貢献すれば、地域に受け入れられる。
- ・地域で避妊手術を進めている人がいたので野良猫が減ってきた。この人が野良猫を減らそうと活動している事を知らない人が、えさをやっているのを見て罵声を浴びせた。このような人に理解をしてもらう方法に困っている。
- ・野良猫にえさだけやって数を増やしてしまったケースがある。これはその人に対して見て見ぬふりをしてきた町会の責任もあるのではないか。そこまで増える前に町会として手を打つことも必要である。

#### 〈任期終了にあたっての各委員からの感想〉

- ・内容の充実した会議だった。子供たちに動物を可愛がる気持ちをどのように芽生えさせるかといった教育が大切であると思っている。このような内容で取り組みを進めていってほしい。殺処分も順調に減ってきている。
- ・議題が猫の問題が多く、アライグマや鳥インフル等もっと広い意味での動物愛護について議論してほしかった。  
⇒動物愛護センターで議論してもらっているのはペット動物の犬、猫等についてである。野生動物については、所管が別であるのでこの協議会の議題にはのらないものである。
- ・子供の教育・・・命を大切にするとといった観点からは、野良猫ではあるが少しは貢献しているのではないか。しかし量の問題がある。適正な数に向けてみんなの理解を得て減らしていく事を進めていきたい。
- ・避妊手術をすることはいいことだが、その後の対応が大切である。えさやりをする時でも、近隣に理解してもらうための看板を置く等をしてはどうか。市報にも大きな記事で啓発をしてほしい。TNRをしてえさをやっても、トイレの問題が一番問題である。ふんの問題が最も迷惑となっている。  
⇒えさやりをする人が、公園の砂場に毎日夕方にシートをかけて朝に外す活動をしている場所もある。  
⇒ごく一部の公園に限られている。
- ・ふん掃除を含めて、近隣の住民に尊敬される美化の取り組みをしている地域は、

えさをやることについては文句を言われたいことが多い。逆にきれいにして例を言われる。

- ・即効薬がない。時間がかかる。継続しないとすぐに荒地になってしまう。動物行政では身体障害者補助犬法ができるのに20年かかった。尼崎という点を光らせて面に広げていくことが必要だが、30～50年かかるだろう。子供たちが将来成長した時に、命を大切にす、弱者に配慮する、汚いものでもきちんと処理できるといった社会となっていればいいな・・・と考えている。火は消したら終わってしまう。ここで力を抜くわけにはいかない。

<会長からのあいさつ>

- ・2年間ありがとうございました。お礼申し上げます。

以 上